

磐田を 知りたい！調べたい！（小、中学生向け）

おお た がわ 太 田 川

1. 太田川について

太田川は、周智郡森町の太日山から始まり、遠州灘に流れる長さ約44キロメートルの二級河川です。また流域面積（川が流れる地域の面積）は約488平方キロメートルです。流域に関わる市町は磐田市、掛川市、袋井市、菊川市、森町の4市1町になります。太田川に合流する川（支川）は38本です。

出典「しずおか河川ナビゲーションホームページ 川の紹介」（静岡県）

約2万年前

約6千年前

約4千年前

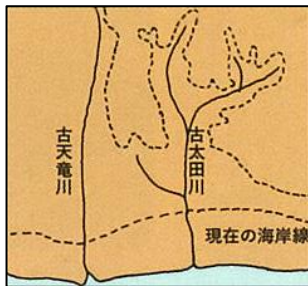
現在

氷河期に海面が下がり、
古天竜川・古太田川ができた

氷河期が終わり、氷が解け
内陸に海水が入り込んだ

古天竜川から運ばれる砂が
積み重なって内湾を囲んだ

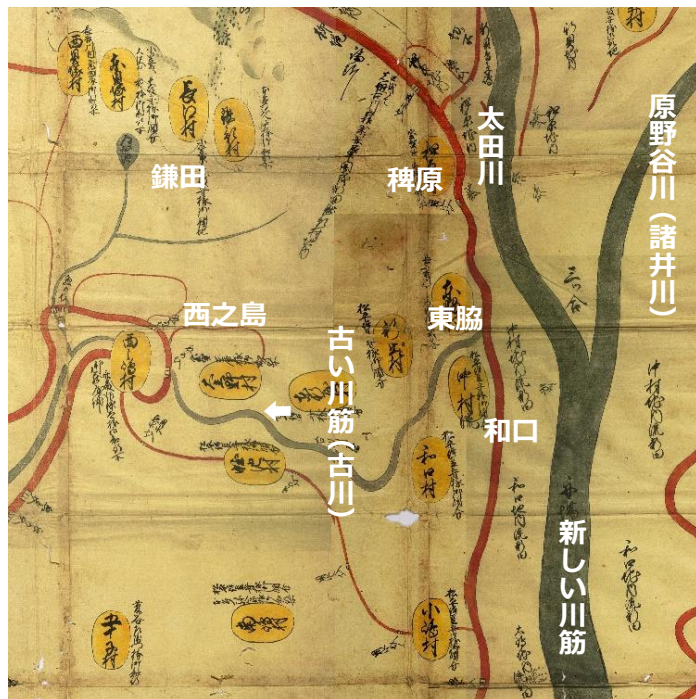
泥や砂の蓄積が進み、
内湾が埋め立てられた



～太田川ができるまで～

出典「てくてく太田川 22号」（静岡県袋井土木事務所）

2. 太田川の歴史



工事後の太田川の様子（江戸時代）

出典「今之浦川・太田川・諸井川（原野谷川）流域絵図」（磐田市教育委員会）一部加筆

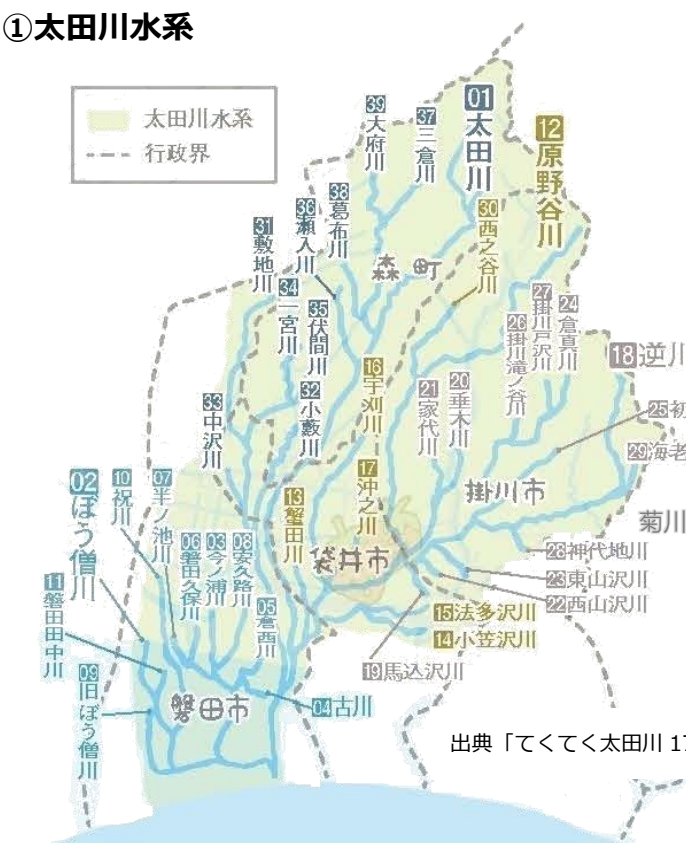
江戸時代の初めまで、太田川は稗原から西に曲がりくねって流れ、今ノ浦川と合流した後、さらに西に流れて遠州灘に注いでいました。太田川流域の人々は、川の複雑な流れによって起きる、度重なる洪水に苦しめられてきました。

1604（慶長9）年、徳川幕府の直轄領を監督していた代官頭・伊奈忠次は、この地域の治水工事を指揮しました。忠次は、太田川と原野谷川（諸井川）を和口付近で合流させ、新しい川筋を掘って遠州灘に流れるようにしました。和口という地名は、川の入口を意味する川口（川口→和口）から付けられたと考える説や昔の太田川の川筋がこの地を湾曲して囲んでいたため、曲（わ）をなすという意味（湾口→和口）でつけられたという説などがあります。

治水工事前の太田川の川筋は、今は古川と呼ばれています。

3. 太田川の水系と自然

①太田川水系



① 太田川	⑭ 小笠沢川	⑳ 掛川戸沢川
② 仿僧川	⑮ 法多沢川	㉑ 神代地川
③ 今ノ浦川	⑯ 宇刈川	㉒ 海老名川
④ 古川	⑰ おきのがわ	㉓ にしのやがわ
⑤ 倉西川	⑱ 逆川	㉔ 西之谷川
⑥ 磐田久保川	㉒ 馬込沢川	㉕ 敷地川
⑦ 半ノ池川	㉓ 垂木川	㉖ こやぶがわ
⑧ 安久路川	㉔ いえしるがわ	㉗ 小藪川
⑨ きゅうぼうそうがわ	㉕ 家代川	㉘ なかざわがわ
⑩ 旧仿僧川	㉖ 西山沢川	㉙ 中沢川
⑪ いわいたなかがわ	㉗ ひがしやまざわがわ	㉚ いちみやがわ
⑫ 磐田田中川	㉘ 東山沢川	㉛ 一宮川
⑬ はらのやがわ	㉙ 倉真川	㉜ ふすまがわ
⑭ かいたがわ	㉚ はつまがわ	㉝ 伏間川
	㉛ 初馬川	㉞ 瀬入川
	㉜ 掛川滝ノ谷川	㉟ みくらがわ
		㊱ 三倉川
		㊲ かっふがわ
		㊳ 葛布川
		㊴ おおふがわ
		㊵ 大府川

参考「しずおか河川ナビゲーション ホームページ」(静岡県)

出典「てくてく太田川 17 号」(静岡県袋井土木事務所)



大池のしっぺいの
ベンチと野鳥の様子
(2024 年撮影)



②内陸性干潟の大池

JR 磐田駅の南へ約 1.5 km 行ったところに大池があります。この池は太田川、今ノ浦川に流れているため、淡水でありながら潮の干満によって水位が上下します。県内でも珍しい「内陸性干潟」の池です。

池の周囲にはウォーキングコースや野鳥観察施設も整備されているので、野鳥を観察することができます。野鳥を観察するためののぞき窓やしっぺいのベンチも設置されています。

③絶滅危惧種の魚 カワバタモロコ

絶滅危惧種の魚、カワバタモロコが古川(太田川水系一覧④)に生息しています。平地性の純淡水魚で、全長 7 cm くらいにしかありません。雄は繁殖期に体の色が金色になるため、静岡県内各地では、この色にちなむ名で「キンター」や「キンモロコ」などと呼ばれていました。

出典 『静岡県川と海辺のさかな図鑑』(静岡新聞社)



南 御厨交流センターのカワバタモロコ
(2025 年撮影)

④はまぼう公園で見られる 野鳥とハマボウ(植物)

太田川河口には、「はまぼう公園」があります。そこでは、約 100 種類の野鳥を観察することができます。また、夏には黄色の美しい花を咲かせるハマボウも見ることができます。ハマボウは、仿僧川の両岸に大きな群落があり、福田地域を代表する植物で、旧福田町のまちの花に選ばれていました。



ハマボウ(アオイ科フヨウ属の落葉低木)

4. 太田川で見られる構造物

① サンドバイパスシステム 2014(平成26)年3月完成



出典(静岡県袋井土木事務所)



遠州灘沿岸は、主に天竜川から流れてきた土砂によって形成されています。福田漁港で堆積して(たまって)しまい、船の航行を妨げている土砂を、浅羽海岸にポンプで運ぶ国内初のシステムです。



出典「てくてく太田川第20号」(静岡県袋井土木事務所)

ガーネットサンド (2012年磐田南高等学校地学部が命名)

福田海岸で採れる砂には、斜長石や石英、磁鉄鉱、ガーネットが含まれています。日本では数か所の海岸でしか見つかりません。

② 仿僧川耐震水門 1997(平成9)年11月運用開始

地震による津波災害を未然に防ぐために作られました。
鋼製シェル・スライドゲート式で総重量1,280t。
143mの河川幅に対して約20m×6門が設置されています。ゲートは震度5以上で自動的に下ります。



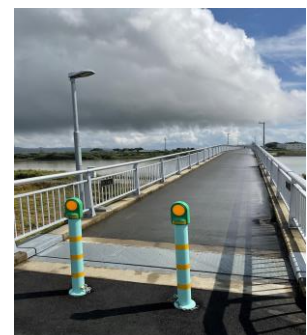
太田川ダム(2024年撮影)



仿僧川耐震水門(2024年撮影)

③ 太田川ダム 2009(平成21)年11月完成

太田川上流の森町に造られました。ダムによってできた湖は「かわせみ湖」といいます。
湖の容積(貯められる水の量)は、1,160万m³=25mプール3万杯くらいです。



新しい和口橋(2024年撮影)

④ 和口橋 2021(令和3)年3月完成

1960(昭和35)年に架けられた以前の橋は、幅3.6m、長さ120mで自動車が通行可能でした。
2021(令和3)年に幅3.0m、長さ437mの自転車・歩行者専用橋になりました。

5. 太田川の水害と川の流れの移り変わり

① 七夕豪雨

1974（昭和 49）年 7 月 7 日から 8 日未明にかけて台風 8 号による集中豪雨により、太田川は磐田市や袋井市などの各地で決壊しました。磐田市内では田原地区、御厨地区などで大きな被害を受けました。右の写真は、新貝地区が大きな被害を受けたことを示したものです。看板の左側の柱にはこの場所が浸水した水位が塗装されています。（矢印の位置まで浸水）



（新貝公会堂 2024 年撮影）

② 太田川の河川改修（太田川・原野谷川の合流地点付近）

七夕豪雨以降、太田川の河川改修が進められ川の流れや川幅が変化している。



1970(昭和 45)年 5 月
七夕豪雨以前



1986(昭和 61)年 12 月
七夕豪雨から約 12 年後



2006(平成 18)年 1 月
七夕豪雨から約 32 年後

出典 国土地理院ホームページ 空中写真データを加工して作成

<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>

6. 太田川について詳しく調べるには

- ・「てくてく太田川」 静岡県袋井土木事務所 太田川情報編集局
<http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki/fukuroi/works/coproduction/>
- ・「しずおか河川ナビゲーション」 静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課
<http://www.shizuoka-kasen-navi.jp/>
- ・『磐田市史 通史編（上・中・下）』磐田市史編さん委員会／編
- ・『福田町史（通史編・資料編Ⅱ）』福田町史編さん委員会／編
- ・『わたしたちの福田町』福田町教育委員会／編
- ・「いわたふるさと散歩 磐田文化財マップ」東部編、南部編、福田編
- ・「太田川ダムってどんなダム？」静岡県袋井土木事務所ダム管理課／編 などがあります。